

## 取り扱い金融商品に関する留意事項

商号：岡三オンライン証券株式会社 / 金融商品取引業者関東財務局長(金商)第 52 号

加入協会：日本証券業協会、(社)金融先物取引業協会

リスク：【株式等】株価変動による値下りの損失を被るリスクがあります。信用取引、先物取引及びオプション取引では投資金額(保証金・証拠金)を上回る損失を被る場合があります。株価は、発行会社の業績、財務状況や金利情勢等様々な要因に影響され、損失を被る場合があります。投資信託、不動産投資証券、預託証券等は、裏付け資産の評価額(指数連動型の場合は日経平均株価・TOPIX 等)等、先物取引及びオプション取引は対象指数等の変化に伴う価格変動のリスクがあります。外国市場については、為替変動や地域情勢等により損失を被る場合があります。【FX】外国為替証拠金(保証金)取引は預託した証拠金(保証金)の額を超える取引ができるため、対象通貨の為替相場の変動により損益が大きく変動し、投資元本(証拠金)を上回る損失を被る場合があります。外貨間取引は、対象通貨の対円相場の変動により決済時の証拠金授受の額が増減する可能性があります。対象通貨の金利変動等によりスワップポイントの受取額が増減する可能性があります。ポジションを構成する金利水準が逆転した場合、スワップポイントの受取から支払に転じる可能性があります。為替相場の急変時等に取引を行うことができず不測の損害が発生する可能性があります。【各商品共通】システム、通信回線等の障害により発注、執行等ができず機会利益が失われる可能性があります。

保証金・証拠金：【信用】最低保証金 30 万円が必要です。信用取引は保証金の額を上回る取引が可能であり、取引額の 33%以上の保証金が必要です。【先物・オプション】「(SPAN@証拠金額×1.0) - ネットオプション価値の総額」の証拠金が必要です。【FX】発注証拠金(必要保証金)は、取引所 FX では取引所が定める為替証拠金基準額に当社が合理的と認める額を加算した額とし、店頭 FX では取引額の 1%とします。発注証拠金に対して 1 取引単位(1 万又は 10 万通貨)の取引が可能です。発注証拠金・取引単位は通貨ごとに異なります。取引所 FX の為替証拠金基準額は、取引所により市場リスク等の算定に基づき適宜改定されるため、発注証拠金の額を事前に示すことはできません。Web サイトで最新のものをご確認ください。

手数料等諸費用の概要：【日本株】売買手数料には 1 注文の約定代金に応じたワンショットと 1 日の合計約定代金に応じた定額プランがあります。上限手数料(税込)は、現物ではワンショットが 1,277 円、定額プランが約定代金 100 万円以下で上限 800 円、以降約定代金 100 万円ごとに 400 円加算、また、信用ではワンショット(標準)が 360 円、ワンショット(優遇)が 280 円、定額プラン(標準)が約定代金 2 千万円以下で上限が 4,000 円、以降約定代金 1 千万円ごとに 2,000 円加算、定額プラン(優遇)が約定代金 5 千万円以下で上限が 2,800 円、以降約定代金 5 千万円ごとに 1,800 円加算します。手数料プランは変更可能ですが、信用の優遇手数料は当社が定める基準により適用します。信用取引には金利、管理費、権利処理等手数料、品貸料、貸株料の諸費用が必要です。【中国株】売買手数料(税込)は約定金額の 0.21%(最低手数料 52.5 香港ドル)。この他に香港印紙税、取引所手数料、取引所税、現地決済費用の諸費用が必要です。【先物】売買手数料(税込)は、日経平均株価先物は 1 枚につき標準が 420 円、優遇が 252 円、日経 225mini は 1 枚につき 42 円です。優遇手数料は当社が定める基準により適用します。【オプション】売買手数料(税込)は、約定代金に対して標準が 0.21%、優遇が 0.168%、最低 210 円です。優遇手数料は当社が定める基準により適用します。【投資信託】お申込みにあたっては、当該金額に対して最大 3.675%(税込)の申込手数料を戴きます。換金時には基準価額に対して最大 0.5%の信託財産留保金をご負担いただく場合があります。信託財産の純資産総額に対する信託報酬(最大 2.4525%(税込・年率))、その他の費用を間接的にご負担いただきます。また、運用成績により成功報酬をご負担いただく場合があります。詳細は目論見書でご確認ください。【FX】取引手数料(税込)は、取引所 FX は 1 取引単位あたり 105 円、店頭 FX は無料です。スプレッドは、通貨ごとに異なり、為替相場によって変動します。Web サイトで最新のものをご確認ください。

お取引の最終決定は、契約締結前交付書面、目論見書等及び Web サイト上の説明事項等をよくお読みいただき、ご自身の判断と責任で行ってください。

## コモディティ マンスリーレポート

### ◎ 10月のコモディティ市場 —— 全体的に堅調

10月のコモディティ市場は上昇しました。上旬は、世界的な景況感の改善によるコモディティ需要の回復期待や、株価上昇で投資家のリスク許容度が高まったことからコモディティ市場にも投資資金が流入したことで堅調な展開となりました。中旬も、株価上昇に加え、ドルが対ユーロで昨年8月以来の安値をつけるなどドル安が進行したことで、ドル建てで取引されるコモディティは相対的に割安との見方などから買い進まれました。一方、下旬に入ると米経済指標で予想を下回るものが散見されたことで景気の回復力に懐疑的な見方が広がり、株価が調整の動きになったことなどから一転して反落する展開となりました。

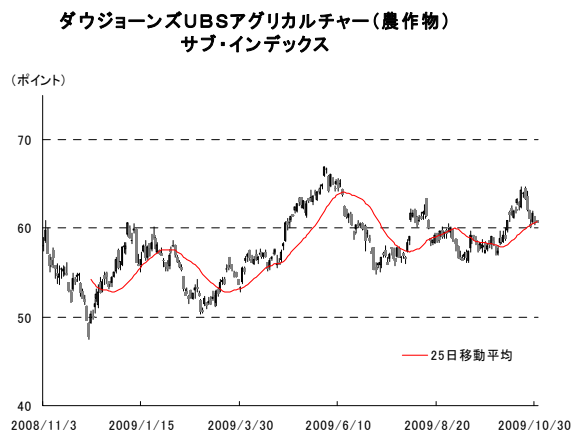
商品指数の動きとしては、ダウジョーンズUBSコモディティ・インデックスは、中旬にかけて上昇基調を辿り、21日には約1年ぶりの高値となる138.9ポイントをつけました。ただ、その後は反落する展開となり、月間では3.3%の上昇になりました。また、ダウジョーンズUBSアグリカルチャー(農作物)サブ・インデックスもほぼ同様の展開となり、月間で2.9%の上昇となりました。

図表1 ダウジョーンズUBSコモディティ・インデックスの騰落率

	2009年10月 騰落率	直近1年間騰落率 (2008年11月～2009年10月)
ダウジョーンズUBS コモディティ・インデックス	+3.3%	▲0.1%
ダウジョーンズUBS アグリカルチャー(農作物)サブ・インデックス	+2.9%	+6.0%

出所：Bloombergより岡三AM作成

図表2 商品指数の推移(期間：2008/11/3～2009/10/30)



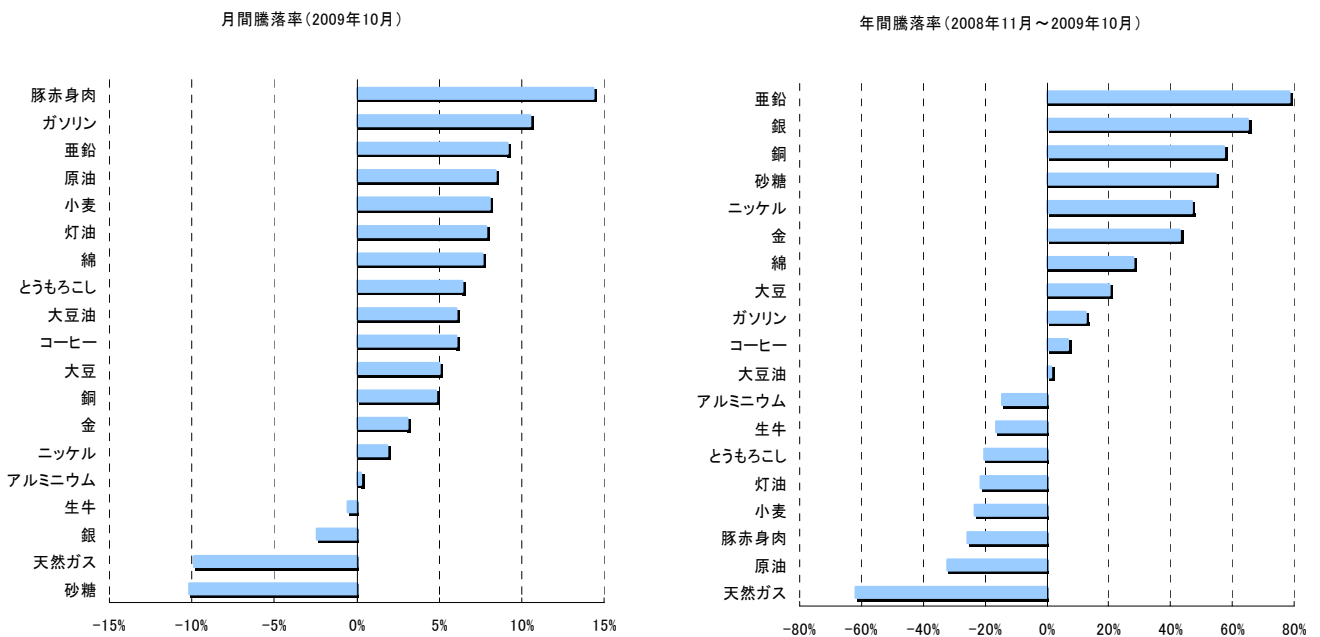
出所：Bloombergより岡三AM作成

■本資料は情報提供を目的として作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市場見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、特定のファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合もあります。■本資料は当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。■最終ページに重要な事項を掲載しています。

## ◎今後の見通し —— 景気の回復に伴う需要増期待や良好な外部環境から堅調

当面のコモディティ市場は、世界景気の回復に伴うコモディティの需要増期待を背景に堅調な動きが続くと想定します。また、世界的な株高などによる投資家のリスク許容度の高まりや、ドル安といった良好な外部環境も相場を下支えすると考えます。ただ、個々の商品では依然として需給面に改善がみられないものもあり、投機色が強まっていると考えられる点には留意が必要です。また、米国ではCFTC（米商品先物取引委員会）がコモディティ市場の規制強化に向けて議会との協議を続けており、投資家の間で様子見姿勢が強まることも懸念されます。

図表3 ダウジョーンズUBSコモディティ・インデックス構成銘柄別騰落率



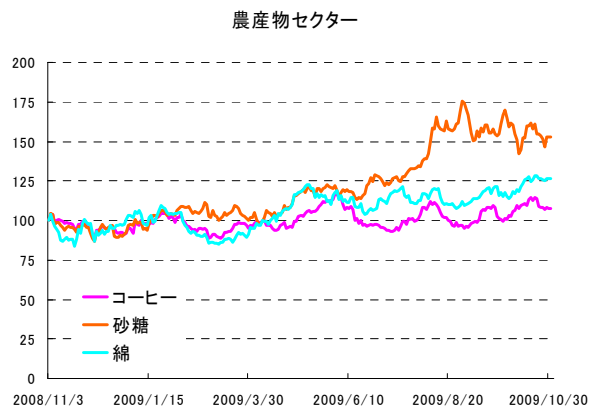
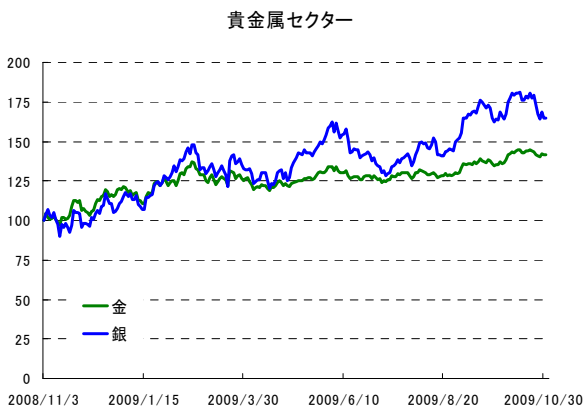
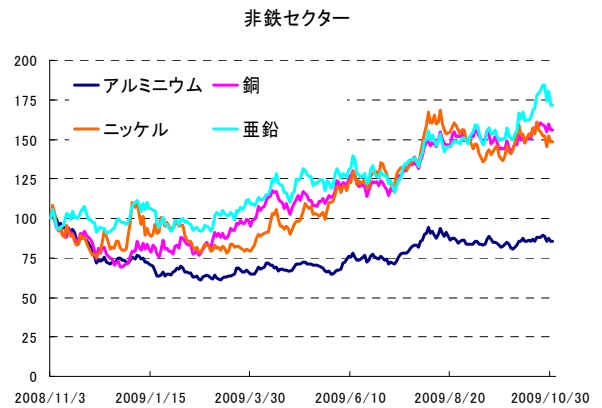
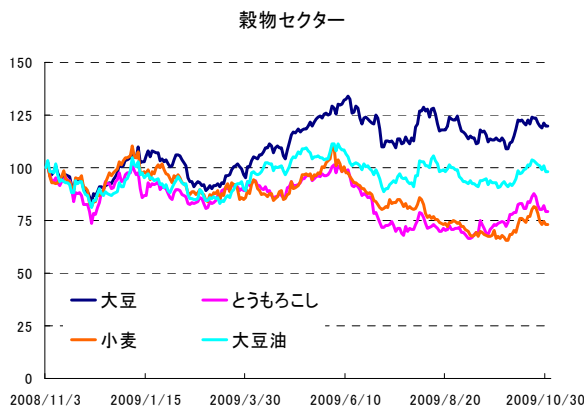
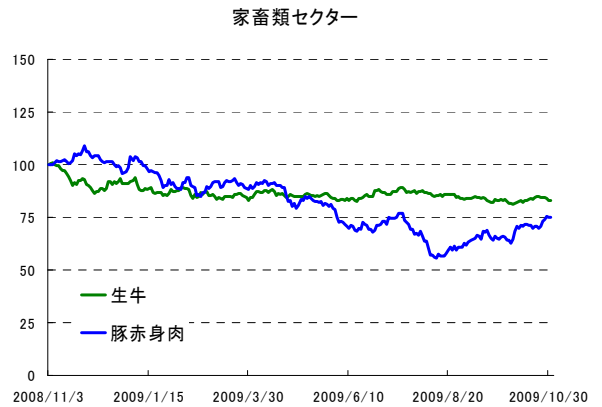
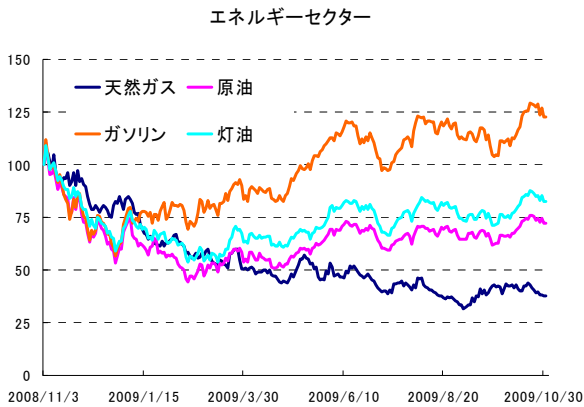
出所：Bloomberg より岡三 AM 作成

■本資料は情報提供を目的として作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市場見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、特定のファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合もあります。■本資料は当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。■最終ページに重要な事項を掲載しています。

**図表4 ダウジョーンズUBSコモディティ・インデックス構成銘柄のセクター別相場推移**

※2008/11/3 を 100 として指数化

(期間：2008/11/3～2009/10/30)



出所：Bloomberg より岡三 AM 作成

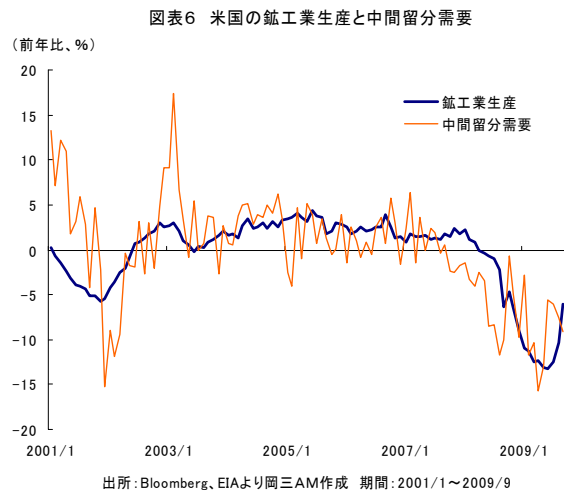
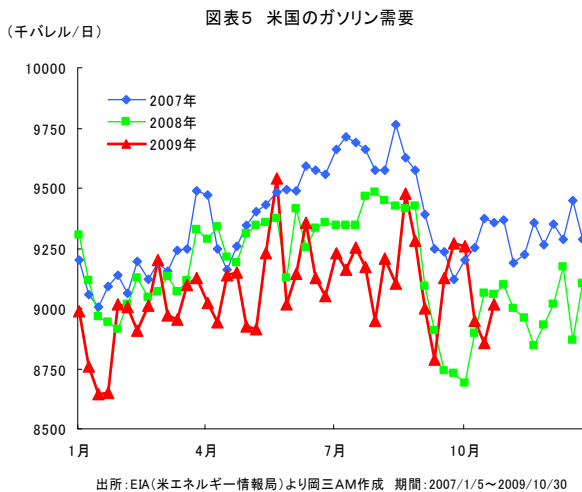
■本資料は情報提供を目的として作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市場見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、特定のファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合もあります。■本資料は当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。■最終ページに重要な事項を掲載しています。

## 主要セクターの動向と当面の見通し

### 《エネルギーセクター》 ～ 堅調 ～

10月のエネルギーセクターは+3.6%の上昇となりました。個別では原油が+8.5%、ガソリンが+10.5%、灯油が+7.8%上昇する一方で、天然ガスは▲9.9%の下落となりました。

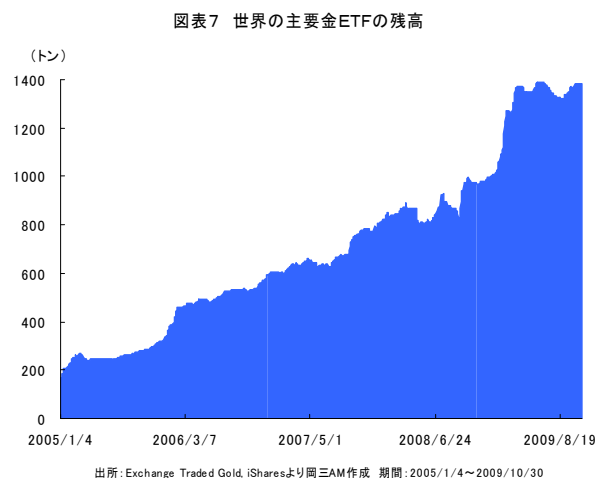
11月のエネルギーセクターは、世界的な景気回復による需要増期待を背景に堅調な動きを想定します。原油の需要面を見ると、米国のガソリン需要は足元では昨年水準を若干下回っているものの、夏場に比べ例年の水準に近づいてきています [図表5]。また、経済活動をより直接的に反映する中間留分需要は生産活動の持ち直しに伴って回復基調にあります [図表6]。一方、供給面では米国の原油、製品在庫とも依然として高水準で推移しています。また、OPEC（石油輸出国機構）は今年1月以来大幅な減産を実施していることで生産余力は日量600万バレル（世界原油需要の約7%）程度あるとみられており、需要増加の動きに対しては機動的な増産が可能であり、価格の大幅な上昇は想定し難いと考えられます。



### 《貴金属セクター》 ～ ドル安観測から堅調 ～

10月の貴金属セクターは+1.4%の上昇となりました。個別では金が+3.1%上昇する一方で、銀は▲2.4%の下落となりました。

11月の貴金属セクターは、引き続きドル相場の動きに左右される展開を想定します。金は、米国の低金利政策の継続や財政赤字の拡大といった先行きのドル安観測を背景に上値を試す動きが予想されます。ただ、足元の金需要を見ると、金ETFなど長期保有目的の現物投資が頭打ちとなっている点は懸念されます [図表7]。11月に入ってインド中銀がIMF（国際通貨基金）から金200トンを購入したことを発表しており、他の新興国も外貨準備に占める金の割合を高めてくると期待される点は価格を下支えすると考えます。



■本資料は情報提供を目的として作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市場見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、特定のファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合もあります。■本資料は当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、投資判断はお客ご自身で行っていただきますようお願いいたします。■最終ページに重要な事項を掲載しています。

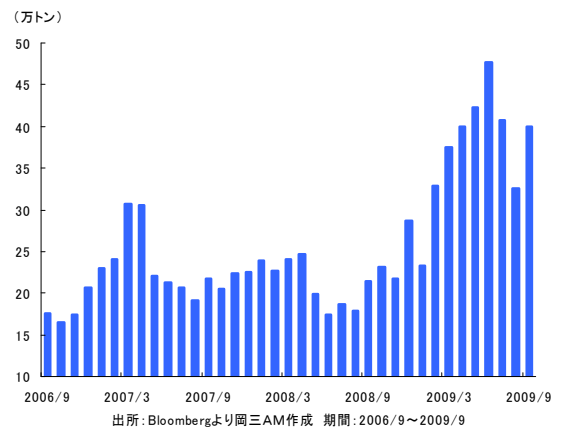
## 主要セクターの動向と当面の見通し

### 《非鉄セクター》 ～ 底堅い展開 ～

10月の非鉄セクターは+3.9%の上昇となりました。個別では銅が+4.8%、アルミが+0.3%、ニッケルが+1.9%、亜鉛が+9.2%それぞれ上昇しました。

11月の非鉄セクターは、中国の堅調な需要と先進国の景気回復に伴う需要増期待を背景に底堅い動きを想定します。銅は、中国で前年比30%を超える固定資産投資の伸びが続いていることで、減少が懸念されていた輸入量も回復をみせており、旺盛な需要は今後も続くと考えられます [図表8]。また、先進国でも、落ち込んでいた鉱工業生産が回復基調にあり、銅需要は増加してくると予想されます。供給面では、最大生産国チリの一部の鉱山に加え、世界3位のペルーでは全国規模の鉱山ストが発生しており、長期化すれば供給懸念から価格の押し上げ要因になると考えられます。

図表8 中国の銅・銅製品輸入量



### 《農産物セクター》 ～ 需給逼迫から堅調 (砂糖) ～

10月の農産物セクターは▲1.8%の下落となりました。個別では綿が+7.6%、コーヒーが+6.0%上昇する一方で、砂糖は▲10.2%の下落となりました。

11月の農産物セクターは、全体的に底堅い動きを予想します。砂糖は、インドなどの輸入増加観測に加え、ブラジルの天候不順による作柄悪化懸念から堅調な展開を想定します。インドの2009/2010年の砂糖需給は、小麦など収益性の高い農作物への転作が進んだことによる減反に加え、夏場のモンスーン (季節風) 到来の遅れによる干ばつの影響から、650~700万トンの供給不足が予想されています。同国の砂糖在庫は10月時点で210万トンと発表されており、年末にかけて大規模な買付けが予想されます。また、世界の砂糖輸出の約4割を占めるブラジルでは、中南部を中心に長雨から収穫の遅れや作柄悪化が懸念されていることから、今後も世界的な需給逼迫は続く予想され、価格は再度上値を試す展開が想定されます。

図表9 NY砂糖先物価格 (期近物)



■本資料は情報提供を目的として作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市場見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、特定のファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合もあります。■本資料は当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書 (交付目論見書) をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、投資判断はおお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。■最終ページに重要な事項を掲載しています。

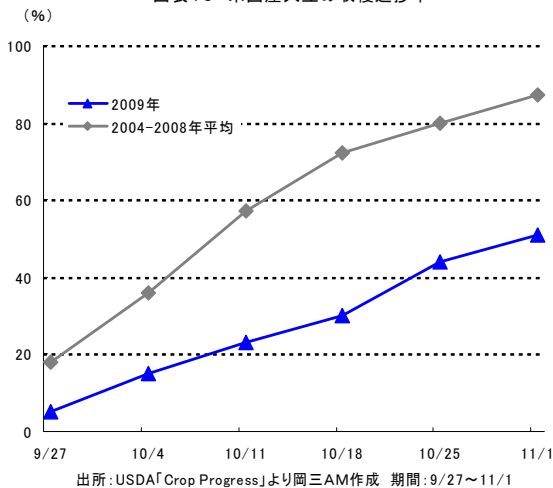
## 主要セクターの動向と当面の見通し

### 《穀物セクター》 ～ もみ合いの展開 ～

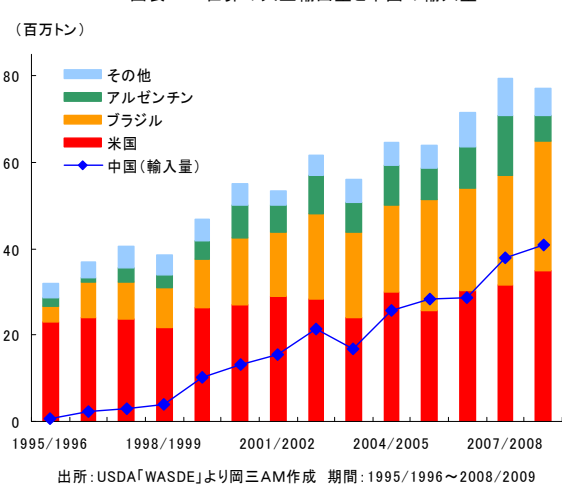
10月の穀物セクターは+6.1%の上昇となりました。個別ではとうもろこしが+6.4%、大豆が+5.0%、小麦が+8.0%それぞれ上昇しました。

11月の穀物セクターは、新穀が市場に出回り始めることで季節的な需給緩和が予想されるものの、中国の輸入増期待などからもみ合う展開を想定します。大豆は、足元では主産地の米中西部で天候悪化により収穫作業が大幅に遅れており、暫くは気温低下に伴う降雪や降霜被害の懸念から強含む場面も想定されます [図表10]。ただ、収穫を終えれば、過去最高水準の生産高を背景に農家からの売り圧力が例年以上に強まると考えられます。需要面では、中国が高い経済成長を背景に過去10年で輸入量を大きく伸ばしており、今後も同国の輸入増期待が下値を支えると考えられます [図表11]。

図表10 米国産大豆の収穫進捗率



図表11 世界の大豆輸出量と中国の輸入量



### 《家畜類セクター》 ～ 緩やかに上昇 ～

10月の家畜類セクターは、+4.0%の上昇となりました。個別では生牛が▲0.5%下落する一方で、豚赤身肉は+14.3%の上昇となりました。

11月の家畜類セクターは、緩やかに上昇する展開を予想します。米国では景況感の改善により消費意欲は高まりつつあるものの、失業率の上昇などから消費者のコスト意識も高まっており、セクター内ではより安価な豚肉が選好される傾向が続くと考えられます。豚赤身肉は、昨年末からの消費低迷で畜産業者が豚の飼育頭数を減少させていることに加え、冷凍豚肉在庫も高水準ながら減少を続けていることで、需要回復とともに需給はタイト化することが予想されます。

以上

■本資料は情報提供を目的として作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市場見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、特定のファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合もあります。■本資料は当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、投資判断はおお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。■最終ページに重要な事項を掲載しています。

## ○ 当資料に関する注意事項

商号 岡三アセットマネジメント株式会社

岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。

登録番号は、関東財務局長（金商）第 370 号で、社団法人投資信託協会および社団法人日本証券投資顧問業協会に加入しています。

投資信託について

### 【投資信託のリスク】

投資信託は、株式や公社債など値動きのある証券等（外貨建資産に投資する場合は為替リスクがあります。）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されるものではなく、基準価額の下落により、損失を被る場合があります。

- ・ 運用により投資信託の信託財産に生じた損益は、すべてご購入されたお客様に帰属します。
- ・ 投資信託は預金等と異なり、預金保険の対象ではありません。登録金融機関でご購入された投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ・ お申込の際は、必ず投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をご覧ください。

投資信託に係る費用について

### 【ご投資いただくお客様には以下の費用をご負担いただきます。】

- ・ 申込時に直接ご負担いただく費用  
申込手数料：申込金額に 4.2%（税込み）以内の率を乗じて得た額
- ・ 換金時に直接ご負担いただく費用  
換金手数料：1 万口当たり 105 円（税込み）以内の額  
信託財産留保額：1 口当たり換金時に適用される基準価額に 0.5%以内の率を乗じて得た額
- ・ 投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用  
信託報酬：純資産総額に実質年 2.035425%（税込み）以内の率を乗じて得た額  
その他費用：上記以外に監査費用、有価証券等の売買委託手数料など保有期間や運用実績に応じてご負担いただく費用があります。

個別の投資信託の費用は、投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面でご確認下さい。

<ご注意>

上記のリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。各費用項目の料率は、岡三アセットマネジメント株式会社が運用するすべての投資信託のうち、最高の料率を記載しております。投資信託のリスクや費用は、個別の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をご覧ください。

■本資料は情報提供を目的として作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市場見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、特定のファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合もあります。■本資料は当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。■最終ページに重要な事項を掲載しています。